

令和元年度第3回学校運営協議会報告（広尾中）

1 学校関係者評価

学校長から自己評価について説明を受け、評価結果や評価方法の妥当性を評価しました。（下記資料1、2）

次の学校運営協議会において、学校関係者評価報告書が学校長に提出される予定です。

2 熟議「子どもたちに育成したい資質・能力」

第2回学校運営協議会の協議結果（生徒の実態、熟議「広尾中の子どもたちの強み・弱み」）を踏まえて熟議を行いました。

●交流された意見

【克服】

負けず嫌い。まずやってみようとして挑戦する力。くじけない目標に向かう。目標に向かって努力。忍耐力を付ける。希望を持ち続ける力。失敗は成功のもと恐れず挑戦する人に。まずはやってみる。決めたことを継続する。自分の力で壁を乗り越えていく力。新しいことに取り組む。何ごとにも全力を尽くす力。苦勞してでもよりよいものをつくりだそうとする力。

【自立と共生】

互助精神の育成。自ら考える力。協働できる力ワンチーム。自分で課題を見つけ出し自分で考えて（解決策を考える）取組む力をつけてほしい。自分で考えて決断できる。誰とでもうまくやっていける。仲間を大事にして自分の気持ちをはっきり言える。他人の意見を聞き自分の考えを言える力。自分の言葉で説明できる。孤独を楽しめる。違いを受け入れる。自分の意見を伝える。

【学習】

自ら学習する力。本を読む。グローバルの世界に対応するため英語の力を。読書力をつける。何ごとにも興味・関心をもってみる力。学力向上のため家庭学習（予習・復習）の習慣を付けて欲しい。

【コミュニケーション】

考えをもち文字にして書く力。進んで行動する。状況を正しく判断できる。感情をコントロールできる。話を聞く力をつける。

【自己肯定】

これだけは負けられないと言えるもの。自分に自信をもてる。自分と向き合う。自分のよいところを理解し人に伝える力。

【地域参画】

広尾のよさに気付ける。周りを元気にする。町の出来事に関心を。地域活動に積極的参加。

【体力】

スポーツを続ける。心・技・体。体力をつける。

【食育】

好き嫌いは最小限に。

【家庭】

すすんで家事を手伝う。親に頼らず自立して。

【優しさ】

他人をプラス思考でみて評価する力。人を思いやる優しさをもってほしい。人にやさしい心をもつ。相手の心情を考えて場に合った言葉を選べる。



学校関係者評価資料（教職員自己評価）

下記の観点のうち、あてはるものについて、今年度取り組んだ内容、反省等について記入してください。

教育活動の実施状況

【次の知識及び技能を身に付ける。】

観点	取り組んだ内容、反省等
(ア) 伝統や文化への関心をもって、広尾町の歴史について調べたり、まとめたりするなどの技能を身に付ける。（社会）	・ 広尾神社（十勝神社）を中心に広尾の歴史についてまとめることができた。 ・ 世界の伝統や文化の成り立ちと、広尾町の伝統と文化の成り立ちを比較してまとめた。
(イ) 広尾町に関するデータを用いて標本調査の方法について理解する。（数学）	・ まだ当該単元に入っていない。 ・ 3学期行う予定 ・ 8章標本調査をまだ行っていない。
(ウ) 広尾町の身近な生物、地形、気象などの観察を通して、観察、実験などに関する技能を身に付ける。（理科）	・ 3学期のこれからではあるが、海岸段丘の生成要因と地震による津波の学習を広尾の地形に沿って学習を進めていく予定である。 ・ 2年次には、学校に隣接して気象庁の設備がある為、効果的に学習ができると思っている。 ・ 丸山公園や、新丸山公園のオタマジャクシを捕獲して観察した。また、11月には広長の気象要素を観測した。
(エ) 郷土の伝統音楽の特徴と、その特徴から生まれる多様性を理解する。（音楽）	・ 1学年で文化箏「さくらさくら」を演奏した。 ・ 2学年で歌舞伎「勧進帳」を鑑賞した。 ・ 3学年で滝廉太郎「花」を歌唱した。

【次の思考力、判断力、表現力等を身に付ける。】

観点	取り組んだ内容、反省等
(ア) 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討する。（国語）	・ 意見発表文を書くために、日常生活の中から話題を見つけ、情報を整理した。自分の身近な話題を取り上げることで、説得力を持った文章を作成することができた。 ・ 「話すこと・聞くこと」の活動を通して、日常生活の中から話題を決め、相手に効果的に伝わるような工夫を考える授業を行った。 ・ 全員が確実にその技術を習得していないため、今

	後も普段の学校生活をはじめ、日常生活でも意識できるように促していく。
(イ) 学校所在地の特徴に着目して調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し表現する。 (社会)	・ 広尾町の気候と世界の気候を比較し、気候による住環境の違いなどについて考える活動を行った。 ・ 公民の授業で広尾町の財政について、資料を用いて考えることができた。また、どのようは配分にしたらより自分たちの生活がよくなるのか考えることができた。
(ウ) 広尾町に関わるデータを用いて分布の傾向を読み取り、判断したり考察したりする力を養う。 (数学)	・ まだ当該単元に入っていない。 ・ 3学期行う予定 ・ 8章標本調査をまだ行っていない。 ・ 2月末で学習予定。広尾町の気温の分布から傾向を読みとったり、他の地域と比較させたりと、様々なデータから考察する力を養いたい。
(エ) 生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、広尾町の身近な生活の問題を見いだし解決する力を養う。(技術・家庭)	・ 北海道大学と連携したオオバナノエンレイソウの学習は他の地域にはない特色ある教育題材であった。技術の栽培単元の時間を通してではあるが地域に根差した活動ができた。 ・ 2年生の、費生活の学習分野において広尾町の特産品である「塩サイダー」の宣伝広告を作成した。地域の特色や、それを伝える工夫について考えることができた。
(オ) 地域の行事などを話題にして英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を活用して話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現する。(外国語)	・ JICA 研修員との交流に際し、地域の特色などを、簡単な英語で表現し、それを研修生に対し発表することができた。初めての取り組みでもあり、時間配分などにゆとりがなく質問等に答えるところまで進められなかったのが反省点である。 ・ 簡単な疑問文を使って、お互いに広尾のことについて会話をを行った。 ・ 広尾町を題材にしたガイドブックを作成し、外国人の先生にプレゼンをした。
(カ) 広尾町や地域の課題を見いだし、具体的な対策を考え、実践し、地域や社会に参画できる力を養う。(特別活動)	・ ふるさと学習の3年間を通して、地域参画を目指した力をつける教育課程になっていると思う。 ・ 1学年の総合で地域を知ることまでしか学習することができなかった。 ・ 合同清掃で中高の班で地域に自分たちができることを話し合う機会を作った。 ・ 郷土を学ぶ学習について、中学3年間を通して教育課程に位置付けて実施できている。 ・ 特に具体的な指導はしていないと思われる。

【次のような意欲や態度、人間性等を醸成する。】

観点	取り組んだ内容、反省等
(ア) 地域にある文化遺産のよさや美しさを感じ取る。(美術)	・3年生の自画像制作において、背景の例として自分の周囲の環境として、地域の景観の美しさや、「サンタランド」などの建物等について扱った。全生徒ではないが、一部の生徒は地元の景観から発想を得ていた。
(イ) 互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。(総合的な学習の時間)	・特別活動の項目でも記述したが、例えば行事の反省や職場体験などの決まった内容のだけの総合ではなく、地域を学ぶ学習のカリキュラムが3年間を通じて組まれていることは良いと思う。 ・職場体験において、互いの良さを見つけ積極的に取り組むよう助言をした。 ・全体的なサポート、パソコンをうまく使えない、使い方がわからない生徒に教えたり、作業が進んでいない生徒へのアドバイスや発表練習のサポートなど。 ・自分自身パソコン関係で知らないことが(学校のネット環境など)あったので理解をする。 ・3年生の地域開発。グループでお互いに意見を出し合いながら、広尾町をよりよい町とするために必要なことを考え、今後の行動につなげようという機運を高めることができた。 職場体験学習において地域の事業所の協力を得ながら学習を進めた。地域に入り込んだ体験により、生徒が肌で感じたものは有意義であったと考えられる。 ・3年生の総合の時間では、地域開発をテーマに、協力して取り組んでいた。 ・グループ学習などを通して、互いの良さや考えの違いを考えることができた。また、職場体験学習を通して、広尾町の職業を知り、社会に関心を持つことができた。 ・積極的に社会に参画しようとする態度はまだ身につけていないので、意識させられるよう促していく。 ・2学年で職場体験学習を通して、学校外に出てさまざまな経験を積んだ。 ・1学年では、お互いに協力して学習する姿勢は見られたが、社会に参画する態度までは目的をあげら

	れなかった。 ・郷土を学ぶ学習について、中学３年間を通して教育課程に位置付けて実施できている。自ら課題を見つけ、解決に向かう態度が養われている。
(ア)郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めようとする態度を養う。 (道徳)	・「島唄の心を伝えたい」「加山さんお願い」などの教材を扱った。自分たちが住む広尾町の良さについて再発見をしたり、地域のために自分ができることについて考えたりすることができた。 ・道徳では、地域学習は取り入れていない。 ・２学年で、郷土の魅力にふれて「祭りの夜」、「和食」の良さって何だろう「心でいただく伝統の味」という題材を通して、郷土に対する尊敬の念を深めることができた。 ・１学年の道徳の教科書の教材「ぼくのふるさと」を通して人間にとってふるさとはどんなものか考える授業を行った。生徒のワークシートからふるさとは、温かさや思い出深い場所だと考えたり、自分のふるさと広尾町について振り返ったりすることができた。 ・道徳に関して、郷土に関わる内容は行っていない。

学校経営の実施状況

視点	観点	取り組んだ内容、反省等
じりつ (自立・自律)の教育	(ア)道徳の時間を使って「自立」と「自律」の意識を育てる。(道徳推進教師、担任、副担任)	・道徳の時間の取り組み方が年々変容していく中で、教科化に伴い、教科書を用いた適切な取り組みができた。 ・「早朝ドリブル」「スマホに夢中」などの教材を扱った。自分でやるべきこと、やってはいけないことを判断するとともに、より良い生活習慣について考えることができた。 ・価値項目に迫るよう授業を行ってきているが、それによって実際に自立と自律の意識が育ってきているかは不明瞭である。 ・「自立」を意識して授業できなかったが、「自律」の意識を持って授業を行った。その結果生徒から規範の意識を持てるような発言も出た。 ・意識できている生徒も増えてきたが、まだまだ「自律」を意識できていない生徒が多いので、継

		続して指導していく。 ・自他の考え方の交流をして、「自立」に向けて考える場が設けることが出来た。 ・1学年の道徳の教科書を利用し、自分で決めるために必要なことを考えたり、いじめについて自分の意思や判断で責任ある行動する態度を学んだりする学習をした。 ・自分事として捉える授業を実施することで、育成を図っている。 ・道徳の時間は数回行ったが、自立、自律の意識を育てることにつながったかどうかは微妙な部分がある。
	(イ) 生徒会活動を通しての、主体的な活動体験を重ねる。(生徒会担当)	・様々な行事や集会(文化祭、全校集会)を通じて、生徒の自主的な活動を促し、適切な援助を行うことができた。 ・行事の運営やボランティア、中高一貫生徒会交流会等に取り組んだ。特に体育祭や文化祭の行事では生徒が主体的にアイデアを提案し、活動に取り組むことができた。
	(ウ) 時間を大切にする指導を継続する。(全職員)	・まず教員自身が授業時間をしっかり50分確保し「待たせない」「伸ばさない」の姿勢を確立することができた。 ・授業はもとより、学校生活においても常に時間の厳守を意識した。 ・チャイムと同時に授業開始のあいさつをすること、道具の準備中でもまず時間通りにやるべきことをやるということを徹底した。 ・休み時間のうちに、教室へ行き、生徒の様子を見守った。また、修学旅行では時間の指導を学年団全体で徹底した。時間を守る意識をつけることができた。 ・授業や短学活をはじめ、さまざまな場面で時間を守る事について指導してきた。少しずつ身になってきているのではないか。 ・部活動では練習と練習の間の切り替えを早くする指導を行っている。少しずつではあるが意識できるようになってきた。 ・授業の開始・終了や清掃活動時などに、意識的に声掛けをし、自らも時間を有効に使う範を示すことができた。

		・チャイム前着席等、「準備」の大事さを理解させ、時間を大切にする指導をしていく。 ・状況に応じた声掛けをすることで、時間を大切にすることを意識して行動することが概ね、できていた。よりよい生活をするための声掛けを継続していきたい。 ・提出物の期限を守らせるよう呼びかけを行った。 ・学校生活を通して時間を守ることを意識させ、時間を守る意義について伝えた。 ・授業の始まり終わりを時間でしっかり終わるようにした。給食準備や掃除の時間を早く終われるよう時間への意識を持たせた。 ・授業や生徒会活動において、見通しがもてるようにスケジュール表を配布した。教師自身が授業の開始、終わりの時間にルーズにならないように意識した。 ・見通しをもって行動していくことの大切さを適宜指導している。 ・チャイム前に教室に行きチャイムで授業を終わり、時間を守る意識をさりげなく指導した。 ・授業前に教室に入り、始まりと終わりの時間を守る手本になれた。 ・提出物の締切の大切さを指導できた。 ・給食準備や片付けの際、学級や手洗い場等で声掛けを行っている。
CS の中で 郷土愛を 育て感性を 磨く	(ア)各教科での地域人材の活用を図る。(教科担任)	・地域人材を活用することはできなかったが、火気を使う実験等では一人で同時に全員の安全を配慮しながら見るのが厳しいと感じることはある。人材がいれば活用したい場面は確実にあるが、教員ではない人材である場合に、そこに入ってもらい難しさもあると思う。 ・地域人材の活用はできなかったので活用できる機会を作れるといいと思った。 ・豊似小の読み聞かせサークルと連携して、作家の講演会を実施した。自校だけではなかなかできないことも、地域と協力することで実施でき、貴重な時間とできた。 ・特に行っていない。 ・行うことができなかった。 ・紙芝居の読み聞かせで、地域の方の繋がりで講

		師を招いて実施した。 ・文化祭合唱コンクールで外部講師をお呼びして、講評を頂いたので、次年度に向けての生徒の意識向上にもつながった。 ・1学年の総合学習でCSやピロロツーリズムと連携して体験学習を行った。 ・広尾高校生に協力してもらい、授業を行った。 ・北大生に協力してもらい、授業を行った。 ・家庭科の保育実習ではひろお認定こども園と連携し、実習を行った。 ・特に行っていない。 ・数学科においては、中高一貫の取り組みの一環で広尾の高校生に、中学生に教えるなどできた。 ・他のアイデアがあれば学びたい。
	(イ)各教科での地域の施設等の活用を図る。(教科担任)	・2年次には学校隣接された気象庁の地域観測台を活用したい。 ・野外学習などではシーサイドパークの体育館を使った学年レクを行うことが出来た。 ・3年生の総合では活用できたが、教科としてはできていない。 ・特に行っていない。 ・中学校隣の気象庁の観測所に職員が来ていたので、いろいろ質問させていただいたが、授業にはあまり生かせなかった。 ・あまり地域の施設を活用する機会が無かったので、図書館等活用しながら読書活動を推進していきたい。 ・広尾町立図書館、海洋博物館、本通5丁目トイシ、菊地ファーム、十勝神社、サンタランドを総合学習で利用した。 ・特に行っていない。 ・数学科においては、地域の施設などの活用を図ることはできなかった。地域の施設や時数をかんがえても数学科では厳しいと考える。
	(ウ)広尾町の歴史、文化を学習する。(全職員)	・技術のエンレイソウや学習や、総合のふるさと学習など時間を通して、自身も5年間、町の色々な部分に関わることができた。 ・広尾町で流行っているスポーツや広尾町出身のスポーツ選手、過去に活躍した選手など知る機会などがあっていいと感じた。

		・ 3年生の総合の地域開発。町おこしの提案を行うために、広尾町について調査を行った。長年住んでいても知らなかった歴史について、理解を深められた。 ・ 郷土学習は特に行っていない。 ・ 総合的な学習の時間で、役場の担当者から、広尾町の実態を聞くことができた。 ・ 総合的な学習を通じ、生徒と共に地域の特色について学習することができた ・ 広尾町の歴史・文化についてはあまり学んでないので、総合学習を通して学んでいきたい。 ・ 3年生の総合学習の発表を聞き、広尾についての課題が見えたように思う。 ・ 1学年の総合学習で歴史グループを作り学習し、発表会で学年の生徒へ学んだことを伝えた。 ・ 総合の学習を使って行った。 ・ 総合的な学習の時間において、地域の方の協力を得て体験的な学習を行うことができた。 ・ ふるさと学習や、研究所などで受動的に学ぶことが多かった。 ・ 職場体験や3年生の発表を聞くことを通して、広尾町についての理解を深めることができた。
	(工) 修学旅行を活かし、東京と比較する中から広尾町の良さを再認識させる。(3年団)	・ 修学旅行で感じたことから、総合の地域開発へと発展させた。東京で見聞きしたことをもとに、広尾町でも実施して行ける取組を、具体的に考えることができた。 ・ 浅草寺やスカイツリーなどの観光地を体験することで、広尾町との違いを再確認できたようである。 ・ 旅行前の事前学習から旅行後のまとめまで、テーマを一貫して意識させ、今後の町の在り方まで広げて考えさせることができた。 ・ 修学旅行が終わった後に広尾町についての話も少ししたが、具体的なことはしていない
目標と目的	(ア) 各学級において、生徒一人一人の目標の設定と反省を行う。(担任)	・ 前期の目標を設定し、その反省をもとに再度後期の目標を設定した。自分で設定した目標を日常生活の中で常に意識するということには課題が残る。 ・ 一人一人に目標設定をさせ、それに向けた手立てを考えさせてきたが、反省にかける時間は少な

		く、原因や対策を練るまでには至っていない。 ・行事やテストなど、目標を掲げ、目標達成に向けて協力して取り組むことができた。 ・行事や学期ごとに目標をたて、振り返り、学級通信などで振り返ったことや考えを交流させた。 ・毎学期終わりに行った。
	(イ)部活動における目標を設定する。(顧問)	・夏の新チーム確立後や年明けなど、適宜必要なタイミングで生徒自身が文字として目標を起こし、意識させることができた。 ・サブであるため設定していない。 ・練習ノートに自分の足りない部分や目標を書かせ、意識して練習に取り組むようにした。 ・最終的な夏の中体連での目標をチーム・個人で設定し、そこに向けた段階的な目標も意識した。最終的な目標については、途中段階で再度見直しを図る必要を感じた。 ・個人目標と部の目標を掲げている。 ・新チーム発足時に、チーム目標を立ててそれに向かって頑張ることができるように声掛けを続けている。 ・生徒に自分の目標を5個の項目に分けて考えさせた。その目標を部室に貼って、いつでも目に見える形にした。 ・吹奏楽団体コンクール、ソロコンクールで高い目標を設定し、練習を行い、達成することができた。初めて行われた定期演奏会でも意欲的に取り組むことができた。 ・個人の目標やチームの目標を設定した。また、1日の目標を個人は振り返りシートで、チームは始まりのミーティングで設定した。 ・個々でバスケノートを作り、練習ごとに記載するようにしている。 ・課題に合わせた目標を設定した。 ・個人目標とチーム目標を設定させ、その目標の実現を意識した取組をしている。 ・個々の目標を設定させて指導してきた。 ・メイン顧問の先生のサポートにまわるようにしているので、自ら目標を設定することはない。

	(ウ) 道徳を通して、目標を立てた目的を理解する。 (道徳推進教師他)	・道徳の教科書を用いて、毎時間目標を持ち、進めることができた。 ・1学年の道徳の教科書「全てがリオでかみ合った」を通して、自分の成長のために必要なことなどを考えながら目標の意義を学習させた。 ・目標を明確にした授業実践の積み重ねにより、道徳の授業改善が図られた。
整理・整頓・後始末	(ア) 清掃活動の意義の理解と、点検活動による生徒への意識化を図る。(生徒会保美委員会担当)	・清掃強化月間など生徒への意識づけをした。保美委員会においても、率先して美化に努めるよう指導した。
	(イ) 大会等遠征における持ち物の整理整頓をする。(顧問)	・顧問として指導の必要が無く、先輩から後輩へと正しく指導が引き継がれているようだった。必要があれば指導するが、できればこの形がしっかりと続いていく方が望ましいと思う。 ・練習試合の前の日に道具を準備し、生徒達だけで必要なもの、足りないものを確認させた。 ・何回か道具を忘れることがあったので最終確認の指示を教員から出せばよかった。 ・前日にしっかりと準備をする、練習や大会会場では整理して物を置くことを徹底した。忘れ物もなく、服を畳んだり、物をきれいに並べて置いたりする習慣はついている。 ・大会時には、荷物の整理整頓を常に意識して声掛けをしている。自然とできる回数も増えてきた。 ・持ち物について、生徒と保護者で確認がとれていなかったなので、確認して指導していく。 ・通信で連絡を行い、徹底するよう心掛けた。 ・大会や合宿などを通して、自分で持ち物を準備し、管理させ、整頓させることを学習させた。 ・声掛けをしている。 ・日頃の取組の中でも徹底して行っている。外部会場でも整理整頓を心掛けている様子が見られる。 ・必要なものなどは、連絡をして指導をしてきた。
	(ウ) 学習時における机上整理の徹底をする。(教科担当)	・必要なもの以外は出さない指導は行っている。理科室において、個人的には黒板まわりの目に入る範囲内に余計な情報を与えるものを置かないということにも配慮している。 ・使用した道具等の片付け、及び取り扱いについ

		て指導した。 ・机はあまり使わないが保健の授業では整頓されていた。 ・使い終わった物はしまうなどの声かけを行った。一部だが、まだ整理整頓が定着していない生徒もいるので、今後も継続した声かけが必要である。 ・机上のルールを特段決めていないこともあり、徹底とまではいかなかった。 ・普段から、授業と関係のないものは出さないように指導している。 ・授業における準備についてはその授業ごとで指導している。 ・こまめに必要なものを伝えるよう心掛けた。 ・全ての授業を通じて必要なものを伝え、整理させた。 ・必要なものの指示をはじめにしている。 ・準備や片付けの時間を授業内で確実に設けた。 ・筆入れも含めて必要なものだけ机上に置いて学習するよう指導している。物を探したり余計な動きが減ったように感じる。 ・ unnecessaryなものは出さないよう指導してきたつもりだが、徹底はしていなかった。
共生・協働	(ア)学校行事の準備作業を通して、仲間と助け合っていく体験を重ねる。 (全職員)	・学校全体として、行事に向き合う意欲は高いと感じている。時数等で制限されていくことも多いが、学校行事での協働を通して生徒を成長させることは必要であると感じる。 ・体育祭を通して、互いに認め合い、助け合う体験ができた。 ・手のあいている生徒にやることを教えてあげたりやる気を高めるような声掛けをした。 ・体育祭、文化祭の準備。悩みながらも、学級内で協力して行事に向かっていき、達成感を得ることができた。また、委員会活動を通して縦のつながりもできていた。 ・行事の部門活動では、周囲を見ながら助け合い精神が少しずつ見られるようになってきた。 ・体育祭や文化祭では、協力して行事に取り組んでいたようである。 ・生徒会書局員は、学校祭や集会の準備を通じ、

		学校全体を見渡して活動する大切さを学ぶことができていた ・学校行事に積極的に取り組むように指導している。 ・お互いに助け合っていくことの大切さを、積み重ねることで、相手に対する思いやりをより感じることができたと思います。見通しを持つことの大切さを改めて感じることができました。 ・積極的に子ども達が関わり、取り組むことができた。 ・全ての行事を通して、学活や活動の中で意識させ、体験を重ねさせた。 ・行事を通して、学級や学年の連帯が高まるよう、担任の先生や担当教諭が連携を取り、運営していることで、生徒たちが意欲的に取り組み、成功体験を積んでいると考える。 ・部門活動の時に指導をしてきた。 ・学級や各担当で自ら決めたことに対して、協力しあいながら取り組む様子が見られた。
	(イ)学級活動において助け合いの体験を重ねる。 (担任)	・欠席者分の仕事をカバーし合う。人手が足りない時に「手伝って」「いいよ」と生徒たち自身で声をかけながら仕事にあたることができた。 ・行事をはじめ、学級内での取組について、互いをフォローしあう姿が見られた。 ・清掃活動や給食準備など、仲間と協力をして取り組む姿勢を身に付けるよう呼びかけをした。 ・係活動や当番活動を中心に助け合いの大切さを指導した。 ・学級の五役を中心にボランティアデイを作り、より意識する日を作った。
	(ウ)道徳の授業を通して、互いを認め合う心を育てる。(全職員)	・全員で均等に分担という形ではなかったが学年団として道徳の授業を共有することはできた。担任として、学級への道徳指導の一環である道徳授業と、担任の負担が増える中での学年団としてのサポートをうまく両立させることは難しいと感じた。 ・他人の弱さを許せる強さを持てるよう努めた。 ・道徳の授業でやった内容を生徒との会話に持ち込んだりして思い出させるようにした。 ・「ぼくにもこんな『よいところ』がある」などの

	教材を扱った。自分の良さを発見するとともに、互いの良さについても目を向けることができた。 ・価値項目に迫りきれたかは定かではないが、相手のいろいろな価値観に触れることができたことにより、相互理解が図れたように感じる。 ・自分が主体である授業は1日だけであったが、協力しながらロールプレイングを行っていた。認め合うところまでは至らなかったように思う。 ・授業を通して、お互いの考えの違いや良さを認める活動をしている。 ・様々な考えを相互理解しあうことで、考えることの楽しさを学ぶことができた。 ・自他の考えを持ち、交流する中で深めることができたと思う。 ・人それぞれが様々な意見があり、それを学び合うことを大切にすることを最初から意識させ、グループ活動やホワイトボードによる意見交換を大切に行った。 ・自分の思いや考えを交流する場面を設定している。相手の考えに寄り添う、相手の考えと比較することで、互いを認め合う心の育成に繋がっていると思う。 ・道徳の授業だけでなく、普段の授業においても認めあう心を育てることが大事だと思われる。 ・意見交流の中で様々な考え方に触れ、自らの考えを変化させたり、より根拠のあるものにしたりしていた。
--	---

学校関係者評価票（提出用） 委員名 _____

学校から示された自己評価を見て、下記の表にある「観点」ごとに、「自己評価が妥当かどうか」について、当てはまるものを○で囲んでください。

なお、理由や意見等がある場合には「取組に対する意見等」の欄に自由にお書きください。

教育活動の実施状況

【次の知識及び技能を身に付ける。】

観点	評価結果の 妥当性	取組に対する意見等
(ア) 伝統や文化への関心をもって、 広尾町の歴史について調べたり、 まとめたりするなどの技能を身に付ける。 (社会)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
(イ) 広尾町に関係するデータを用いて 標本調査の方法について理解する。 (数学)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
(ウ) 広尾町の身近な生物、地形、気象などの 観察を通して、観察、実験などに関する 技能を身に付ける。 (理科)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
(エ) 郷土の伝統音楽の特徴と、その特徴から 生まれる多様性を理解する。 (音楽)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	

【次の思考力、判断力、表現力等を身に付ける。】

観点	評価結果の 妥当性	取組に対する意見等
(ア) 目的や場面に応じて、日常生活の中から 話題を決め、集めた材料を整理し、 伝え合う内容を検討する。 (国語)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
(イ) 学校所在地の特徴に着目して調査の 手法やその結果を多面的・多角的に 考察し表現する。 (社会)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
(ウ) 広尾町に関わるデータを用いて分布の 傾向を読み取り、判断したり考察したり する力を養う。 (数学)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	

(工)生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、広尾町の身近な生活の問題を見いだし解決する力を養う。(技術・家庭)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
(才)地域の行事などを話題にして英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を活用して話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現する。(外国語)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
(力)広尾町や地域の課題を見いだし、具体的な対策を考え、実践し、地域や社会に参画できる力を養う。(特別活動)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	

【次のような意欲や態度、人間性等を醸成する。】

観点	評価結果の 妥当性	取組に対する意見等
(ア)地域にある文化遺産のよさや美しさを感じ取る。(美術)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
(イ)互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。(総合的な学習の時間)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
(ア)郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めようとする態度を養う。(道徳)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	

学校経営の実施状況

視点	観点	評価結果の 妥当性	取組に対する意見等
じりつ (自立・自律) の教育	(ア) 道徳の時間を使って「自立」と「自律」の意識を育てる。(道徳推進教師、担任、副担任)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
	(イ) 生徒会活動を通しての、主体的な活動体験を重ねる。(生徒会担当)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
	(ウ) 時間を大切にする指導を継続する。(全職員)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
CSの中で郷土愛を育て感性を磨く	(ア) 各教科での地域人材の活用を図る。(教科担任)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
	(イ) 各教科での地域の施設等の活用を図る。(教科担任)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
	(ウ) 広尾町の歴史、文化を学習する。(全職員)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
	(エ) 修学旅行を活かし、東京と比較する中から広尾町の良さを再認識させる。(3年団)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
目標と目的	(ア) 各学級において、生徒一人一人の目標の設定と反省を行う。(担任)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
	(イ) 部活動における目標を設定する。(顧問)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	

	(ウ) 道徳を通して、目標を立てた目的を理解する。 (道徳推進教師他)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
整理・整頓・後始末	(ア) 清掃活動の意義の理解と、点検活動による生徒への意識化を図る。(生徒会保美委員会担当)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
	(イ) 大会等遠征における持ち物の整理整頓をする。 (顧問)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
	(ウ) 学習時における机上整理の徹底をする。(教科担当)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
共生・協働	(ア) 学校行事の準備作業を通して、仲間と助け合っていく体験を重ねる。 (全職員)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
	(イ) 学級活動において助け合いの体験を重ねる。 (担任)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	
	(ウ) 道徳の授業を通して、互いを認め合う心を育てる。(全職員)	概ね妥当 妥当と思わない よくわからない	

以上の観点にかかわらず、学校の自己評価の結果等についてご意見があれば記入して下さい。

評価項目等	意見

令和元年度 学校評価（教職員自己評価）2学期

資料3

広尾町立広尾中学校
令和元年1月14日

＜評価方法＞

A：よくあてはまる B：あてはまる
C：あまりあてはまらない D：あてはまらない

*記述欄に評価の補足、解決策などを自由に記入してください。

4～1

前回より上
前回より下

領域	項目	評価の観点	平均	評 価				R1 1学期	H30 2学期
				A	B	C	D		
学校経営	経営方針	学校経営方針を意識した教育活動を重視しているか。	3.3	42.9%	47.6%	9.5%	0.0%	3.2	3.2
	学校の雰囲気	生徒や教職員が生き生きと活動し、学校行事や学年行事等を通して、学校全体に活気のある「豊かな学びの場」になっているか。	2.9	14.3%	61.9%	23.8%	0.0%	3.2	3.0
	組織運営	分掌・学年において責任体制を明確にして担当ごとに責任をもって推進するとともに、必要に応じて協働しているか。	3.2	42.9%	38.1%	19.0%	0.0%	3.4	3.4
学力向上	学習指導	確かな学力としての基礎的・基本的内容が、定着しているか。	2.5	9.5%	33.3%	57.1%	0.0%	2.5	2.7
	家庭学習	家庭学習の習慣づくりと質（時間、内容）の向上に努めているか。	3.1	33.3%	47.6%	19.0%	0.0%	3.2	3.2
	個への対応	生徒一人一人の学習状況をきめ細やかに把握し、個に応じた指導・支援が適切に行われているか。	3.3	38.1%	52.4%	9.5%	0.0%	3.1	3.2
	授業づくり	本時の目標と振り返りを位置づけ、「導入・展開・終末」（課題の提示と授業のまとめ）を意識したわかりやすい授業作りが行われているか。	3.4	42.9%	52.4%	4.8%	0.0%	3.2	3.1
心の教育	生徒指導	心のふれあいを大切にし、生徒の困り感に寄り添った親身な教育相談活動に取り組んでいるか。	3.3	42.9%	47.6%	9.5%	0.0%	3.3	3.2
		いじめの未然防止の取組を行うとともに、いじめの早期発見・解消に努めているか。	3.4	47.6%	42.9%	9.5%	0.0%	3.5	3.3
	人権教育	生徒は自他の生命や人権を尊重する心が育つ手だてをとっているか。	3.1	23.8%	61.9%	14.3%	0.0%	3.1	3.1
	特別支援	生徒の教育的ニーズに応じた指導を行っているか。	3.3	33.3%	61.9%	4.8%	0.0%	3.4	3.1
	道徳教育	年間の指導計画に基づき、道徳の授業および全教育活動を通して道徳的価値の育成が行われたか。	3.2	28.6%	66.7%	4.8%	0.0%	3.2	3.2
		道徳的な実践力を高めるために、議論する道徳の授業づくりに努めているか。	3.4	45.0%	45.0%	10.0%	0.0%	3.2	3.3
健全な体	体力向上	学校教育全般を通して、生徒の体力向上に努めているか。	3.3	38.1%	57.1%	4.8%	0.0%	3.3	3.3
	健康安全	心身の健康の確認や安全点検を適切に行い、処置されているか。	3.4	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	3.4	3.3
信頼される学校づくり	危機管理	教職員一人一人が危機管理意識を高くし、未然防止や事故・問題発生時の対応を組織的に適切に行えたか。	3.3	33.3%	61.9%	4.8%	0.0%	3.4	3.2
	環境整備	校内外の美化に努めるとともに、教室が整理・整頓され、学習しやすい環境となっているか。	3.0	23.8%	61.9%	9.5%	4.8%	3.4	3.3
	情報提供	行事や懇談、PTA活動、各種便りを通して、学校や学級等の状況や考え方が家庭に十分理解されているか。	3.0	19.0%	66.7%	14.3%	0.0%	3.3	3.2
	資質向上	個々の研修の成果や内容を共有し、教職員の資質が向上しているか。	3.0	14.3%	66.7%	19.0%	0.0%	3.0	3.1
	研修活動	研修テーマの達成に向けて、組織的・体系的に研修が進められているか。	3.1	19.0%	71.4%	9.5%	0.0%	3.0	3.0
	PTA・地域との連携	PTA・地域と課題を共有するとともに、連帯しながら生徒を育てる学校づくりになっているか。	3.0	33.3%	38.1%	19.0%	9.5%	3.0	3.1
	学校事務	公正・迅速・的確な事務処理、金銭管理が行われているか。	3.7	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	3.8	3.7
	部活動	保護者と連携し協力を得ながら、健全な心身を育む部活動が推進されたか。	3.2	33.3%	57.1%	9.5%	0.0%	3.4	3.5
	服務規律	教育公務員として服務規律の厳正な遵守に努めているか。	3.5	52.4%	42.9%	4.8%	0.0%	3.7	3.8
	健康管理	自己管理による心や体の健康の維持増進に心掛けているか。	3.4	52.4%	33.3%	14.3%	0.0%	3.5	3.3
	安全管理	施設・設備の危険箇所、通学路における危険箇所、授業や部活動における安全管理に努めているか。	3.4	47.6%	47.6%	4.8%	0.0%	3.5	3.5
CS	学校運営協議会	各教科等における指導の重点を取り入れた授業づくりができたか。	3.0	23.8%	52.4%	23.8%	0.0%	2.9	

※自由記述欄（気づいたこと・解決策等、何でもよろしいので記述してください。）

- ・業務の偏りの軽減、仕事そのものの減量を検討しないと疲弊すると思います。
- ・学習指導の項目のみC評価になっていますが、自分自身指導をしていない、取り組みが不足であるとは考えていません。ただ、第一学年を担当する中で「定着できているか」というと厳しい状況にあるという認識です。自身の力が足りないです。
- ・個別対応の生徒が多くなってきていて、時間割等で教員数もギリギリの状況です。次年度は教員数が最大になるよう（町職員含）していただけるとありがたいです。今年度から来年度にかけて、教員の入れかわりなどが多く、大変な時期だと思っています。引き継ぎ等を確実にを行うよう指導していただきたいと思っています。校内人事に関わって、特別支援担当の先生は週時数が8前後の先生が望ましいと考えている。時間割を作成していて、そうでないと非常にバランスが悪くなり、偏りが出る。今年度は途中で色々変わったのでしょうがない部分もあるが、次年度は考慮していただきたい。
- ・学年団内の課題でもあるが、業務分担や仕事量、協力・協働体制が整っていない（整わない状況）。教員不足（免許外、町費枠の空席、養教他の臨時的任用等）への不安。地域柄、距離、便などの関係も。→大学生は採用試験で登録にならなかった人が早めに内定をほしがるので、なるべく早めにコンタクトを取ってほしい。臨時の枠も少ないので、時期が早い方が希望が大きいかなと思います。最低限、町費4名は確保してください。

3学期に向けた改善策（案）

- ①学校経営の領域では、学校の雰囲気、組織運営の項目が下がったことから、学年、分掌の課題を全体で共有していくようにする。
- ②学力向上の領域では、上がった項目もあるが、依然学習指導の項目に課題が見られる。常に授業改善を意識し、生徒の実態に合わせた効果的な指導を心がける。
- ③心の教育の領域では、学年団を中心とした副担任による道徳の授業の機会を増やし、交流することで指導力向上を図る。
- ④信頼される学校づくりの領域では、全体的に評価が下がっている。特に環境整備、情報提供の項目が大きく下がっていることから、3学期の重点課題として取り組む。
- ⑤教職員としての規範意識【交通事故・違反、パワハラ、セクハラ、モラハラ、金銭事故（卒アル、各種会計等）】の向上を図る。
- ⑥体罰による身体的苦痛と言葉の暴力による精神的苦痛を与えないようにする。
- ⑦教職員の健康管理について、心や体の健康を壊さないようにするために休暇等の有効活用、退勤時間を考える。
- ⑧さわやかな始業と生徒とのコミュニケーションを図るために夜9時、遅くても10時までに帰宅する。

Q 1 学校はどうやって動いているの？

資料 2

1 1 年間の授業時数の出し方

- (1) 1 年の日数 ～ 3 6 5 日（閏年は 3 6 6 日）
- (2) 1 年間の休みの日 ～ 祝日 1 6 日
 土日 1 0 4 日
 学校閉庁日 9 日
 開校記念日 1 日
 長期休業 5 0 日
 休業日が重なることがあるため、1 年間の休業日の総数は、
 例年 1 6 0 日程度になる。
- (3) 年間授業日数 2 0 5 日くらい（3 年生は 1・2 年生よりも 1 週間ほど短くなる）
- (4) 1 週間標準時数 2 9 時間（週に 1 回 5 時間授業の日が入る。この日に生徒会委員会活動や学級活動等を入れることができる。）
- (4) 年間総授業時数 1 2 0 0 時間程度
- (5) 教科配当時数総 1 0 1 5 時間（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、技術・家庭、保健体育、外国語、学級活動、道徳、総合的な学習の時間）
- (6) 特別活動時間数 3 5 時間（生徒会活動等）
- (7) 行事等配当時数 1 2 5 時間程度（入学式、始業式、体育祭、文化祭、卒業式等）
- (8) 余剰時間数 2 5 ～ 3 0 時間程度（6 時間授業の日 4 ～ 5 日分）
- ※ この余剰時間で、本来は生徒との面談を行ったり、相談活動を行ったり、学級の取り組みをします。
- ※ 余剰時間数が 2 5 ～ 3 0 時間ありますが、インフルエンザによる学級閉鎖、学校閉鎖、荒天による臨時休校等があれば 1 日につき 6 時間が消えますので、あっという間になくなります。

2 1 日の動き

- (1) 朝の打ち合わせ 8 : 0 5 ～ 8 : 1 0（電話に出にくい時間帯です。）
- (2) 朝読書、学活 8 : 2 0 ～ 8 : 3 5
- (3) 授業開始 8 : 4 0
- (4) 授業終了 5 校時 1 4 : 0 5 6 校時 1 5 : 0 5
- (5) 学活・清掃 1 5 : 1 0 ～ 1 5 : 2 5
- (6) 勤務終了 1 6 : 3 5
- (7) 部活動（夏季） 1 6 : 0 0 ～ 1 8 : 3 0
- ※ 登校・下校がスクールバスによって決められていますので、6 時間授業の日には余剰時間による生徒と向き合う時間は入れられません。

3 先生方の仕事

- (1) 授業、授業準備・調整、採点、評価、面談・相談、個別指導、家庭訪問、学級・学年事務、分掌業務、校内研修、職員会議、職員打ち合わせ、教材発注・取りまとめ、行事関係
- (2) P T A、部活動、中高一貫業務、家庭教育学級
- (3) 町内団体業務、町内研修会、町内行事参加
- (4) 管内研修会、研修講座出席、管内研究団体業務、中体連業務、入選業務

Q 2 体験学習は

資料 3

どうやって実施しているの？

1 単元の選択

- (1) 教育課程を編成していく上で、ある単元の学習内容をより効果的に実施するために体験学習を取り入れたほうが良いと判断された場合、以下のように取り組んでいく。
 - ① どのような体験学習が効果的かを考える。
 - ② 単元全体で教える学習内容と何時間使えるかを確認する。
 - ③ 体験学習の内容を計画する。
 - ④ 体験学習を効果的にするために、どのような事前学習があるかを洗い出す。

- ⑤ 体験学習の内容をまとめるのに、どれほどの時間が必要かを見積もる。
 - ⑥ 全体で何時間かかるかを算出し、加えてその単元の全体の展開を作る。
 - ⑦ 学習内容に落としがないかを確認する。
- (2) 他の教科で関係する単元があった場合、相乗効果を狙えるかどうかを確認する。

2 実施要項を作成する

- (1) 体験学習を実施する目的を明確にする。
- (2) 実施期日、時間を作成する。
- (3) 体験学習の実施場所を選定し、予定通り行えるかどうかを事前に確認する。
- (4) 移動手段を明確にし、バスを使う場合はバスが使えるかどうかを事前に確認する。
- (5) どのような活動が予定されているかを明確にする。
 - ① 班で行う場合は班分けを作る。
 - ② 持ち物、体験先の備品などを明確にする。
 - ③ 班ごとにテーマが違う場合は、どのようなテーマがあるかを明示する。
 - ④ 教職員がどのように配置されるかを明らかにする。
- (6) 注意事項等を洗い出し、安全に配慮する。
- (7) 事前指導、事後指導の内容を明らかにする。

3 各種申請書、文書類を提出する

- (1) バスを使用する場合はバス使用申請書を出す。
- (2) 体験学習を実施する場所が公的機関であれば、使用許可申請書を出す。
- (3) 体験学習を実施する場所が各種事業所等であれば、協力をお願いする文書を出す。
- (4) 体験学習の講師を招聘する場合は、依頼文書を出す。
- (5) 保護者に体験学習を実施することを知らせる文書を出す。その際に、お金を負担していただく場合は金額と徴収方法、徴収期日等を明記する。
- (6) 体験学習が終了した段階で、お世話になったところにお礼文書を出す。

4 学習内容のまとめ

- (1) 学習内容をどのようにまとめるかを考え、実施する。
- (2) 発表を行う場合は、ポスターにしたり、パワーポイントでプレゼンテーションを作る。
- (3) 発表に保護者等と呼ぶ場合、案内文書を出す。